

**“リハの視点” でつなぐ地域の障害児者支援****～支援学校・障害福祉サービス事業所“リハビリテーションの視点”推進事業報告～****発表者所属・職・氏名**

北部保健福祉事務所 健康づくり支援班

○技術主査 浅野 直子, 技術主査 岩間 真弓, 技師 相澤 裕介

**Key words:** リハビリテーションの視点, 情報共有, 支援者支援**I はじめに**

平成 24 年の障害福祉サービス事業所の実態調査を踏まえて実施した平成 25 年の障害福祉サービス事業所のスタッフ支援事業, また同時期に宮城県立古川支援学校より依頼を受け本格的に開始した教員支援において, 「支援者同士の情報共有不足」と「身体機能訓練に偏った支援」が共通の課題として見えてきた。

そこでこれまでの当所の一つ一つの事業を, 一体的に支援する体制へと見直し本事業を開始したので報告する。

**II 活動内容**

本事業は, 支援学校教員, 障害福祉サービス事業所等支援スタッフ等の障害児者の支援者に対し“リハビリテーションの視点”に基づいた支援の考え方を伝えながら, 互いの役割と支援について情報共有を図れるようになることを目指す支援者支援事業である。

**(1) リハビリテーションの視点 (リハの視点)**

「身体機能回復を目指す視点」だけではなく、「ご本人の思いに寄りそいながら, 生活意欲を高めていく視点」や, 「人や物の環境を整えることでご本人とご家族がより楽に生活できるようになるという視点」も重視していく考え方を指す。本来のリハビリテーションが持っている大事な要素で, 支援者全員に持ってほしい視点である。

**(2) 事業内容の紹介****①古川支援学校教員支援**

保健福祉事務所の理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士の 3 職種が, それぞれの専門性を活かしながらリハの視点で教員支援を行い, そこで見えてきた課題の解決に向け教員と取り組んだ。

**②支援学校・事業所情報交換会**

卒業生が生活する地域の事業所と支援学校との結びつきを図れるように 2 つの情報交換会を実施した。

**【作品・製品展示による情報交換】**

地域の支援者ニーズに対応した研修会の中に, 障害福祉サービス事業所と支援学校の製品・作品展示と事業紹介を行い, 情報交換の場とした。

**【卒業生を通じての情報交換】**

古川支援学校教員に対し, 事業所で働く支援学校卒業生と事業所スタッフを講師とした情報交換会を開催した。在学中から卒業後の支援のつながりや情報共有についてそれぞれの立場から意見を出し合った。

**III 考察**

事業の効果としては, 卒業後の地域支援について在学中の段階から教員と一緒に考える等, 地域の課題解決に向けて福祉と教育の両方へ働きかけることができた。地域の支援者皆が顔を合わせ互いの立場・役割を知り情報共有を図る機会は作れたが, 十分な情報共有ができていないとはいえず課題として残る。さらに異動や離職等で支援者の入れ替わりも多く, リハの視点による支援定着には時間がかかると思われる。

**IV 結論**

障害児者支援に携わる関係機関は多岐にわたっており, 当事業はこれらの関係機関の間を埋める役割を担いながら, 今後も継続する必要があると考える。「ライフステージ全般での横断的な対応」「福祉・教育双方への地域支援の提案」「地域全体での切れ目ない支援への意識付け」という働きかけは地域全体を知る保健福祉事務所のリハビリ専門職の強みであり, 今後もこの強みを活かしながら「リハの視点」での「支援者支援」を続け, 関係機関との「情報共有」を図ることで障害児者を持続的に支えられる地域づくりを継続していく。

**VI 引用・参考文献**

- 1) リハビリテーション支援センター調査研究事業 (平成 25 年)「障害福祉領域におけるリハビリテーション専門職の活動に関する調査報告書」(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/rehabili/rehashien3-2.html>)